

教育目標		自ら考え、行動し、未来を創造できる生徒の育成		～感謝する心、確かな学力、健やかな心身を育てる～			
重点目標		①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成		③開かれた信頼される学校づくり			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 「未来を切り拓く力の育成 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～」を研究テーマとし、ICT機器を活用した学習指導の工夫を取り入れる。 「授業参観weeks」で、全教員が互見授業を行い、「生徒の学びの姿」を授業改善に繋げる。 校内研修会及び、研究授業を積極的に進行。 毎日の終礼学習で基礎学力の定着を図る。 週2回のコミュニケーション・トレーニングを実施し、主に「話す力」「聞く力」「書く力」を高める。 テスト前や長期休業中に、学習相談日を設定し、個に応じた指導を実施させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおいて、「授業は分かりやすく楽しい」という項目では、生徒の肯定的な評価の割合は84.8%、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」項目で、肯定的評価が80%以上を目指す。 生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。 生徒アンケートにおいて、「コミニケーションを通して書く・聞く・話す力がより身についたと思う」項目で、肯定的評価が80%以上を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「授業は分かりやすく楽しい」という項目では、生徒の肯定的な評価の割合は84.8%、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」項目では、生徒の肯定的な評価の割合は93.8%となり、目標数値を上回る結果となった。「授業参観weeks」として今年度新たに3回取り組み、様々な学年や教科の授業を職員が参観し合い、授業改善に繋がった成果だと考えられる。また、週2回のコミュニケーション・トレーニングでは、「書く・聞く・話す力がより身についたと思う」項目で、生徒の肯定的な評価の割合は81.3%となり、目標数値を上回る結果となった。 補習や補充学習の充実に関しては、テスト前や長期休業中には、全学年で学習相談日を設定し、個に応じた指導を行った。また、1年生においては、毎日昼休みの時間を利用して「質問教室」を開放し、学習に関する質問を受ける場を設定した。3年生においては、「受験必勝プリント」と題して5教科のプリント課題を各フロアに配置したり、放課後は毎日学習室を開放したりするなど主体的に学習する機会を設けた。さらに、終礼学習の時間を10分から20分に増やすことで、基礎学力の定着を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会及び、研究授業を積極的に進行し、さらなる授業改善に努める。 オンラインによる授業を含め、ICT機器をより効果的に活用する。 ミライシートを積極的に活用し、学力向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちにとってよりよい授業が分かりやすいか、わかりにくいかを検証する必要がある。授業改善の根幹ともいえることなので各教員が意識して取り組む必要がある。 コミュニケーショントレーニングの取り組みは素晴らしいが、学力向上に反映できればよいと思う。 「めあての明示」「振り返り活動」を徹底して、1時間ごとに何をわかれたい時間なのかを明確にしていることが大切である。 教師が今までのやり方を変えていくことにエネルギーを使う必要がある。 必要に応じてしなやかに対応できる力を教師が意識改革する必要がある。
	学習習慣の獲得	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒を6.5%に増加させる。 課題を提出している生徒を80%以上に増やす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業時間以外の勉強時間1時間以上の生徒が57.4%と、前年(57.6%)より0.2%減少した。一昨年(64.3%)と比較すると0.9%も低く、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が昨年より急増した。貸出先が増えたが、たくさく借りても返却しない様子もある。 保護者アンケートより「学校は積極的に読書に親しむ機会を設けている」70%以上を目指す。 読書の記録「読書貯金」で読書の習慣化を目指す。 読書の記録「読書貯金」で読書の習慣化を目指す。 読書の記録「読書貯金」で読書の習慣化を目指す。 読書の記録「読書貯金」で読書の習慣化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒を60%に増加させる。 課題を提出している生徒を80%以上に増やす。 スクールタクトやミライシートなどを活用する。 よくできたときは褒めてやるを伸ばす。 よくできたときのかわからない生徒も多いので、マイ学習やアートの良い例などを示し、取り組みやすい環境を整える。 毎日勉強をする習慣がつかうような課題の出し方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の基盤は家庭にある。家庭の協力なしでは効果的に取り組めない。啓発活動が大切ではないか。 教師側も宿題の出し方について考える必要がある。 また、親と分る宿題の出方も検討すべきである。 教師が学習の遅れたいや生徒に対して、期間を決めて学習をみるおきない学習を実施していくのも効果的である。 家庭学習の必要性や時間の使い方など、子どもに必要性を理解させ、改善策を考えられるようにならざるよう指導できないか。
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の習慣化、定着化を図る。 読書活動を充実させ、読書力の獲得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間貸出8000冊 生徒アンケート「学校は読書に力を入れている」70%以上を目指す 保護者アンケート「読書に親しむ機会を設けている」70%以上を目指す 	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月末年間貸出数17,688冊となり、目標を大幅に達成した。 月水金の開館は、朝は10人程度、昼は30人程度の来館がある。 生徒アンケートより「朝の読書や図書館利用など読書に力を入れている」と回答した生徒64.1%で、目標には届かなかったが、昨年より3.4%上がった。貸出先が増えたが、たくさく借りても返却しない様子もある。 保護者アンケートより「学校は積極的に読書に親しむ機会を設けている」と回答した保護者は68.3%で、目標には届かなかったが、昨年より7.2%上がった。また、「学校の図書館で本を借りている」と回答した保護者は39.2%で、昨年より5.4%上がった。その一方で「子どもは家で読書をしている」と回答した保護者は、昨年とほぼ変わらず30%にとどまっている。「部活動や塾などで忙しかった」「家で本よりスマホやゲームに時間を割いている様子がある」「本は借りても読んでいない」という意見がある。 学習委員会による図書館の開放、国語科授業での図書館利用、読書貯金の指導も1年生から定着しつつある。NIEワークシートや漢字検定、英語検定の過去問題の活用のために積極的に来館する生徒が増えた。 学習委員会による「図書館まつり」もクイズを考える等、メイプルさんと協力して、感染対策としての開催が3年ぶりにでき、「学校だより」にもその様子をお知らせすることができた。 図書による毎月の「図書館だより」は継続している。 蔵書選定はアンケートを行ったが回収できなかった。 特別支援学級生徒「自立活動」として、読書貯金通帳の作成、廃棄本の処理等の作業が生徒の就労へのイメージづくり、就労への姿勢を考える機会になった。 メイプルさんの読み聞かせは学年に合った内容で、生徒の反応もよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の集団読書を、各自が図書館で借りた本を朝読書で読む方向に変えていく。 学習委員会による「図書館まつり」PR方法を考える。(お昼の放送など) 蔵書選定は1学期終業式の午後などに巡回図書を行う。 定期的に学校だより、学年だより、HPIに取組む予定を知らせることで保護者に学校での取組みを知っていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> 場所が遠い、時間がないなど図書室に行くことが面倒な生徒もいるので移動図書室(コンテナ等)で授業をまわすを導入して気軽に本を手にとりできる環境づくりをしてみようか。 朝読書や給食の準備中の読書が徹底できると良いのではないかと、図書館まつりを図書やボランティアだけでなく、生徒会の委員会でも盛り上げることができないか。 授業等で積極的に図書室の利用をすすめてほしい。 読書感想文コンクールやおやすみ本の紹介など、引き続き取り組んでいただきたい。
	豊かな心・健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒数を減少させるように、個々に応じたきめ細かい対応をする。 一人ひとりの生徒や家庭がなんらかの形でどか(誰か)とつながれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の不登校係会で現在の状況や取り組みの情報交換を行い、個々の生徒や保護者への対応を検討・検証し、学年会との連携をはかる。 養護教諭と連携し、情報共有をはかる。 別室や地域の方との連携をはかり、教室や学校に上りにくい生徒の居場所づくりに努める。 別室を充実させ、学年との情報共有をはかる。 関係機関や小中学校と連携を取り、特別支援の視点を取り入れて指導やサポートを行う。 教材研究を重ね、わかる楽しい授業づくりにつとめる。 学活、総合などの活動や学級通信などを通じ、クラスでの居場所をつくる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒の割合は80.3%で、昨年より7.1%より大幅に上昇した。 「先生は生徒の悩みや不安に親身になって相談のつてくれる」と回答した生徒の割合は85.8%で、昨年より6.6%ポイント上昇した。 別室や地域の方に引き続き機能し、教室に行けな生徒の居場所となり、教室復帰に繋がった事例が見られた。 関係機関やSC、SSWと連携し、ミーティング会議を開いて支援方法を共有した結果、別室登校できるようになった事例も見られた。 養護教諭や不登校支援員をはじめ、さまざまな職員が別室生徒や不登校傾向生徒と関わることができた。 特別支援コーディネーターとも連携し、学習面からITでの指導や遠隔指導など、個々の生徒の状況に応じてサポートできた。 民生委員のお力添えをいただいで、荒牧センターを「ほっこり広場」として活用し、不登校生の居場所とする事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 別室の居場所としての機能をさらに充実させていく。 関係機関やSC、SSWとの連携をさらに進める。 引き続き多くの教職員が生徒に関わり、サポートやケアリングに努める。 特別支援教育の面からのサポートもさらに充実させていく。 地域の人材活用を持続可能な形にしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒が依然多量に現状がある。発生率も高いと聞いている。 原因とする不登校の増加が世間では話題となっている。単純にいじめ問題と片付けられず、生徒指導担当、不登校担当との連携を視野に入れた指導を徹底していただきたい。 小中学校時代からのいじめなどは、入学後に適切に対応できるだけの情報を小中学校と共有し個別に対応すること、子どもたち安心して学校生活を送ることができるようにしていただきたい。 ほっこり広場の運営は大変かもしれないが、家から出られない生徒をひとりでも生活改善する目的で開始したのだから、今年度、改善できるようにした生徒には、継続的に支援できる策を考えて、続けてほしい。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、生徒アンケートにおいて「学校は適切に生徒指導をしている」と回答する割合を保護者、生徒とも90%以上に増やす。 教職員アンケートにおいて「組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合を90%以上に増やす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は適切に生徒指導している」と回答する割合が、保護者90.4%、生徒90.1%と目標を達成することができた。 教職員アンケートにおいて「組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合が91.9%と目標には届いたが、昨年の94.8%から2.9%下がった。 関係機関やSSW、SCと連携して生徒指導に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導事項の情報共有をより一層図るとともに、家庭訪問や教育相談を通じて、普段から丁寧かつきめ細かい対応に努める。 特別支援教育の面からのサポートもさらに強化していく。 指導後も適宜声かけをするなど、ケアに努める。 生徒指導係会で情報共有したことを学年内や学年相互で共有し、報告・連絡・相談体制を進める。 関係機関やSSW、SCとの連携を今後も継続して進めていく。 生徒会とも協力し、学校作りを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室での状況を見ると、学年内や学年相互の連携は出来ていると考えている。適切な生徒指導を行うために、職員間のコミュニケーションをとり、今後も積極的な連携を取り組んでいただきたい。 最近の事例は、学校内だけの対応が難しいと聞いている。情報を共有するためにも、引き続き、sswやsc、愛護センターや総合教育センターとの、関係機関との連携強化をお願いしたい。 学校に対する苦情については、今後も学校指導課とも連携しながら、保護者に真摯に向き合って対応していただきたい。 	
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを実施し早期発見に努めるとともに、個人ノートの活用など、普段の生活より入念な生徒観察を行い、心に寄り添う指導を心がける。 生徒や保護者の訴えやアンケートをもとに教育相談を行い、早期対応に取り組む。 いじめ事案については、担任1人で抱え込まないように、報告・連絡・相談体制を整え、学年や学校で連携し、継続した指導や見守りを行う。 Q-Uアンケート等を活用し、いじめの未然防止に努めるとともに、いじめの認知件数を増やし、いじめの芽を摘む。 生徒指導講演会を実施するなど、SNSのいじめへの啓発活動を行う。 タブレットの使い方について周知する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを実施し、教育相談を行っていじめの実態把握と未然防止に努めた。 いじめアンケートの結果「いじめられていると感じる」生徒が0%にならなかった。 「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒が80%以上になる。 「先生は相談に乗ってくれている」と感じる生徒が85%以上になる。 「先生は相談に乗ってくれている」と感じる生徒が85.8%と、昨年より6.6%ポイント上昇し、目標を達成した。 関係機関やSSW、SCと連携していじめへの対応に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの結果を学年間で共有を図り、組織的かつ迅速な対応に努める。 教育相談後も生徒観察や見守り活動を行い、生徒のケアに努める。 学級が安心、安全で心の居場所となるような学級経営について研修を行う。 担任1人で抱え込まないように、報告・連絡・相談体制を進め、学年で連携して生徒指導に努める。 関係機関やSSW、SCとの連携を今後も継続して進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の使い方が元となる生徒指導事案が増えないと聞いている。情報モラルの観点で、生徒だけでなく、保護者の危機意識を高める必要がある。アンケートを定期的に実施し、活用することにより早期発見に取り組んでほしい。 教育相談で生徒全員と担任が話ができる機会があるのはよい。また、担任と心を開いて話ができることのあるので、多くの先生方からの見守りや、ことばが、情報共有を適宜行うような環境が必要と思われる。 クラスの子供という捉え方だけでなく、学年や学校で情報共有が必要不可欠は、しっかりと組織で対応してほしい。 いじめに対する教師側の気持ちを見直し、いじめを生徒観察をしっかりと行っていたら、また、先生方には「いじめに関する研修」等で研鑽していただきたい。 	
道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「心の教育」を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業において生徒一人ひとりの考えや思いを見取れるような、中心発問・授業展開を行えるよう、研究と研修を行う。 学年通信や学校通信を活用して、道徳の内容を保護者に伝える。 三者懇談など保護者と対面するときに、話題として道徳ノートなどを提示し、学習状況の共有を行う。 道徳の授業を中心にすべての教育活動を通じて、命のたいせつさ、相手を思いやる心を育む。 一月分の指導案を学年会で提案するなどし、指導案の質の向上や教職員の内容理解を促す。 教科書の教材を効果的に活用して道徳教育を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらった」と感じる割合が全学年の平均で89.7%であり、85%を超えた。 (1年生94.4%、2年生90.6%、3年生83.7%) ルーテーション道徳などを通じ、道徳の授業の発問の検討などを行うことができた。各学年での取り組みになるため、今後学校全体での取り組みに繋げる必要がある。 保護者に対して、オープンスクールや懇談、学年通信や学校通信を通じて道徳授業のあり方を見てもらう機会を設けた。 教科書の教材を用いた授業はもちろん、兵庫県版副読本の活用や阪神淡路大震災に関するろうそくへのメッセージ書きなど、地域と連携した授業も展開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校単位で道徳の授業のあり方を考えたり、授業力の向上に努めたりするよう研修計画を、年度当初から年間計画に組み込み、特に夏休みの研修会などで、学校が一丸となるような道徳教育の推進を行う。 オープンスクールでの道徳授業参観は継続する。道徳教育は道徳の授業を中心とした、学校生活全体を通して行うという意識を改めて浸透させ、思いやりや命を大切に思う気持ちを育むようにする。 町の先生などへの制度を活用し、外部から命や人権に関連するような講話をおこなってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「道徳の教科化」が導入され、各学年計画的に指導を行っているとも聞いている。引き続き、教師側の授業力向上や道徳観の向上をさせることにも、校内研修等が欠かせないと思う。今年度は、道徳の授業に力を入れたい。また、先生方には「いじめに関する研修」等で研鑽していただきたい。 道徳には、学校の担うところと家庭の担うべきところがある。この部分を明確にした指導を行うべきである。 道徳を教科として扱うことで、道徳の評価が通知票に記載されるが、担任の主観だけにらぬよう、研修を充実させる必要があると思われる。 子どもへの考え方を尊重し合える学びの環境作りが必要なのではないか。 	
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業を通して、体力の向上を図るとともに自己の健康面に対する意識を高める指導を行う。 部活動では競技力、体力の向上に努める。 教師からの説明を分かりやすく簡潔にまとめ、活動時間を増やす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストバッジの受賞者数は、3年生が38%、2年生が33%、1年生は12%で目標は達成することができた。また、保健だよりも定期的に発行したことが、生徒の健康や体力の向上につながった。さらに、体力の向上に関するアンケートに対して、生徒は91.5%が肯定的な意見を回答し、保護者からも92.1%が肯定的な回答を得られている。このことから、体力の向上については良い状況がとれていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上に関するアンケートについて、今年度の肯定的な生徒の回答は91.5%に対し、前年度は90.9%であった。来年度もこの数値の維持を目指して授業や部活動での取り組みを進めたい。また、近年、部活動時間が減少しているため、昼休みや球技大会を利用し、生徒の活動時間を増やす。 スポーツテストのランキングの作成や目標設定などを通して、スポーツマンへのモチベーションを上げて体力の向上を図りたい。また、低体力の生徒に対しては授業の中で体力が向上するような活動を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 最近では外で遊ぶ子どもが少なくなっていることや、数年にわたる新型コロナウイルス感染防止のため価値半端に制限があったこともあり、子どもたちの体力向上には学校教育が欠かせなくなっている。今後も体力向上について頑張りたい。 在り方について、所属や指針について不安があるが、適切に対応していただきたい。教師、生徒双方に有意義な活動になるようにしていただきたい。 	
開かれた信頼される学校	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な学校情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール週間や、授業参観を実施し保護者や地域の意見を学校運営に活かす。 学校だよりを発行し地域にも配布する。 学校ホームページの更新やGoogleClassroomの配信を積極的に進める。 保健だよりなどを通して、健康管理の啓発を行う。 アンケート結果や保護者の意見を考慮し改善する。 GoogleClassroomのメール登録家庭数増加の取り組みを進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の情報を学年だよりやホームページを通じて保護者に伝えている」では、92.8%、「学習の場として子供の活動がしやすい環境が整っている」では89.6%、「学校は保護者の願いに応えている」では89.0%の保護者からそれぞれ肯定的な回答を得られている。過去3年間の経年変化をみると、すべての項目において肯定的な回答が増えてきており、学校の情報発信については、一定の成果を得られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の評価は得られているものの、ホームページの更新が滞りつつある。個人情報保護の対策をきちんとした上で、情報の更新やファイルのアップロードを行い、さらなる「開かれた学校」を目指す。 メール登録については保護者(特に新入生)に説明し、メール登録数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信については、高い評価を受けているが、ある時期からHPの更新が止まっている。新入生や転校生の保護者や生徒、地域の方々への発信が不十分である。個人情報保護の観点から、どのような工夫や対応が必要なのか新年度に向けて早急に準備する必要がある。 GoogleClassroomの配信は、情報発信が充実している。保護者の登録割合を100%にすることを目標にできるとよい。 	

学校関係者評価総括

・前年度に比べA評価が多いことが気にかかる。子どもや保護者の評価は、数学的には向上しているが、2年間でできなかったことが、ようやくできるようになり、制限のきつかった2年間と比較してであるという、謙虚な受け止めも必要なのではないかと思われる。特に「学力の向上」では、全国学力調査や3年生の実力テストなど、全国の中でのレベルや市内校との比較をみていると、つけるべき力の定着に尽力していただきたいと考える。子どもの「学校へ行くのが楽しい」という質問に対して、令和2年度は、69.9%、令和3年度は、71.1%、今年度は、80.3%である。「わかる 楽しい やってみよう」の授業ができるように研究、工夫していただくことをお願いしたい。そして、学習に対する姿勢は、学校だけでは変えられないので、家庭教育力を向上するための呼びかけ等をPTA活動を通してアナウンスしていきたい。

次年度に向けた重点的な改善点

・今年度から学校教育目標を一新し、社会の変化にすなわかに対応できる力を「未来を創造する力」と捉え、授業力向上と生徒指導指針についても、学校教育目標の実現を目指した目標とした。わかる授業こそが、最大の生徒指導として、授業を通して、子どもたちの自己肯定感をもたせる仕組みを授業の中につくる土台を研究担当者を柱に試行錯誤して来た。本校の目指す研究をご指導いただく先生が新しくなり、今まで継続してきた、Q-UやCRTを有効に活用できるようご指導いただいている。これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善・工夫を目指す、「めあての明示」「振り返り活動」「教合い学習」等を引き続き徹底し、子どもたちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育てていく「授業づくり」の構築が必要である。また、生徒指導面の大きな課題である不登校問題では、関係機関との効果的な連携を行うために、教職員の共通理解のもと、足並みを揃えた実践を進めていく必要がある。子どもたちには、これからの時代を生き抜く資質・能力を身につけさせることが大切であり、荒牧中学校が目指す学校運営を管理職が中心となって、教職員全体へとも周知徹底し、学校教育目標の具現化をめざして実践していく。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った